

7~9月期の業況は低下
【特別調査】 「中小企業の将来を見据えた事業承継について」

【調査要領】
調査時点：2023年9月上旬
調査対象：西兵庫信用金庫お取引先103社
調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査
調査企業数：103社
調査票回収：103社
調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (デフュージョン・インデックス)による分析
景気の方角感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

回答企業の業種別内訳

業種	回答企業数
製造業	32
卸売業	11
小売業	17
サービス業	19
建設業	19
不動産業	5
総計	103

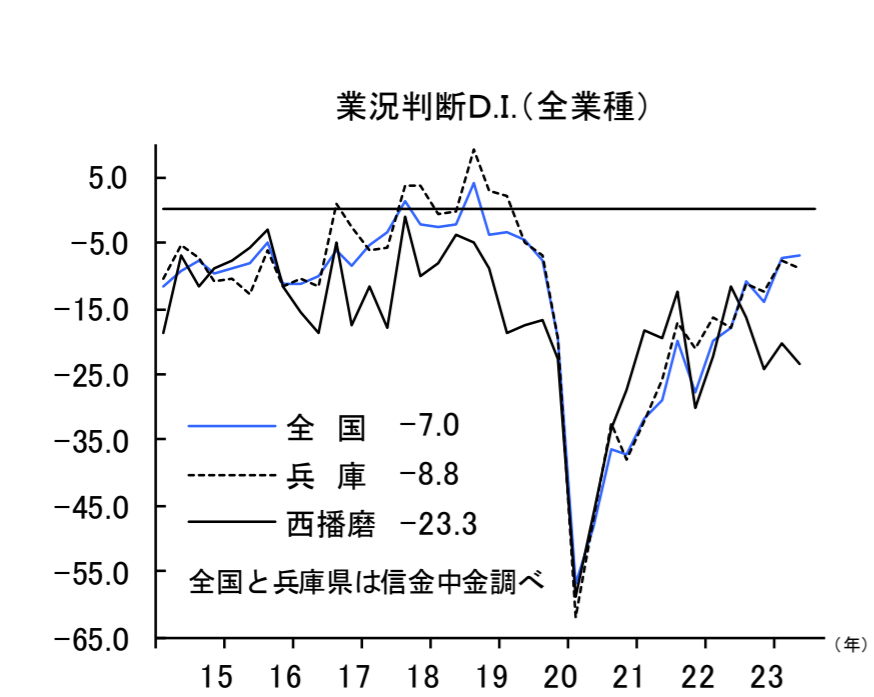
（例）

	良い	普通	悪い	合計
回答数	10	5	5	20

(良い)50%-(悪い)25%=(D.I.)25

全業種総合

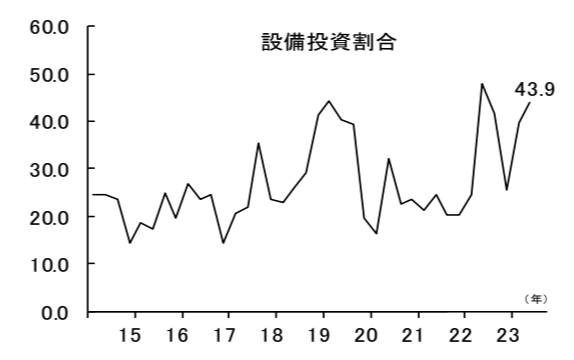
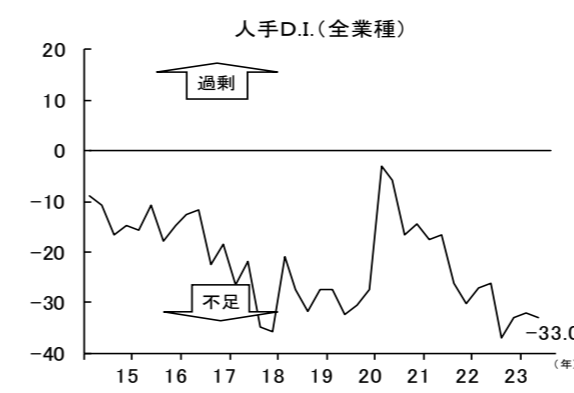
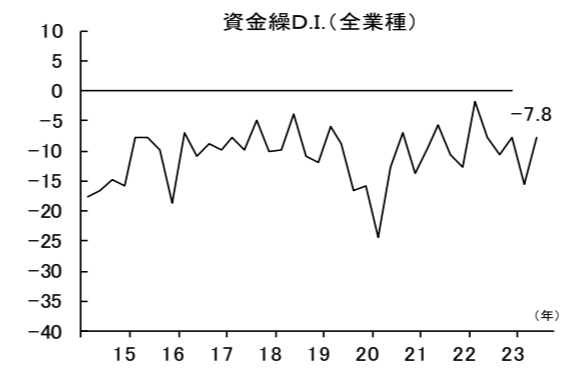
～景況感は低下～
23年7~9月期（今期）の業況判断D.I.は△23.3と、前期比2.9ポイント低下した。前期に比べ業況が「良い」と回答した企業が1.0ポイント減少し、「悪い」と回答した企業が1.9ポイント増加したことによる。
前年同期比の売上額判断D.I.は△3.9と前期比5.8ポイント改善。同収益判断D.I.は△23.3と前期比8.7ポイントの改善となった。業種別の業況判断D.I.は、サービス業、建設業が改善した一方、製造業、卸売業、小売業、不動産業は低下した。
全国の業況判断D.I.は△7.0と前期比0.4ポイント改善、兵庫県では△8.8と同1.0ポイント低下した。



【業種別天気図】 過去4四半期の業況判断D.I.を平均して判定

時期	2023年4~6月	2023年7~9月	2023年10~12月(見通し)
総合	☁	☔	☁
製造業	☁	☔	☁
卸売業	☁	☔	☁
小売業	☔	☁	☁
サービス業	☁	☁	☁
建設業	☔	☔	☔
不動産業	☁	☁	☁

快晴 晴れ 晴れ時々曇り 曇り 雨 大雨
好調 ← → 低調



～販売価格判断D.I.は上昇、仕入価格判断D.I.は低下～
販売価格判断D.I.は23.3と前期比3.9ポイント上昇した。仕入価格判断D.I.は48.5と前期比1.0ポイント低下した。

～資金繰り判断D.I.は上昇～
資金繰り判断D.I.は△7.8と、前期比7.7ポイント上昇した。業種別では、卸売業が前期比9.1ポイント、サービス業が同21.0ポイント、建設業が同15.8ポイント上昇。小売業が同11.8ポイント低下。製造業、不動産業が横ばいとなった。

～人手過不足判断D.I.は、人手「不足」感が少し強まった～
雇用面では、人手過不足判断D.I.が△33.0(マイナスは人手「不足」超)と前期比1.0ポイント低下し、人手「不足」感が少し強まった。残業時間判断D.I.は△10.7と、前期比7.8ポイント低下した。残業時間が「減少」したとする企業の割合が増加したことによる。

～設備投資実施企業割合は上昇～
設備投資実施企業割合(不動産業を除く企業のうち設備投資を実施した企業の割合)は43.9%と、前期比4.1ポイント上昇した。

～来期の景況感は今期実績比改善の見通し～
来期の予想業況判断D.I.は△13.6と今期実績比9.7ポイントの改善を見込んでいる。
業種別の予想業況判断D.I.は、製造業が今期実績比25.0ポイント、卸売業が同9.1ポイント、小売業が同11.8ポイント、建設業が同10.6ポイント上昇。サービス業が同10.6ポイント、不動産業が同20.0ポイント低下となる見通し。

＜経営上の問題点＞
経営上の問題点としては、「売上の停滞・減少」が32%、「原材料高」が31%と多く、その他では「人手不足」が29%、「同業者間の競争の激化」が22%、「利幅の縮小」が20%となった。

＜当面の重点経営施策＞
当面の重点経営施策としては、「経費を節減する」が37%、「販路を広げる」が35%、「人材を確保する」が32%と多く、その他では、「教育訓練を強化する」が15%、「情報力を強化する」が13%、「機械化を推進する」が10%となった。
売上の停滞・減少または原材料高により、経費削減を重点的に取り組む事業者が多い。

経営上の問題点

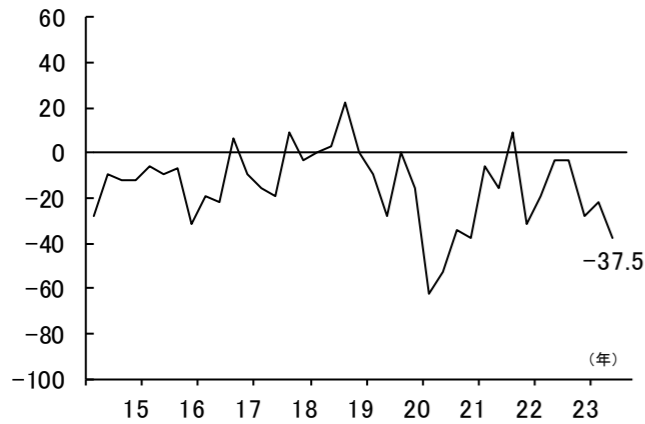
順位	全業種	割合
1位	売上の停滞・減少	32%
2位	原材料高	31%
3位	人手不足	29%
4位	同業者間の競争の激化	22%
5位	利幅の縮小	20%

当面の重点経営施策

順位	全業種	割合
1位	経費を節減する	37%
2位	販路を広げる	35%
3位	人材を確保する	32%
4位	教育訓練を強化する	15%
5位	情報力を強化する	13%
6位	機械化を推進する	10%

製造業

業況判断D.I.(製造業)



～製造業の景況感は低下～

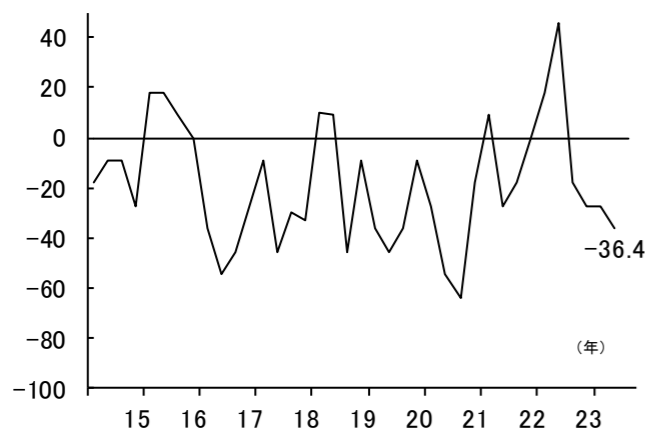
今期の業況判断 D.I.は $\Delta 37.5$ と、前期比 15.6 ポイント低下した。

前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 21.9$ と前期比横ばいとなった。同収益判断 D.I.は $\Delta 28.1$ と前期比 9.4 ポイント改善した。

設備投資実施企業割合は 50.0%と、前期比 15.6 ポイント上昇。資金繰り判断 D.I.は $\Delta 3.1$ と、前期比横ばいとなった。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 28.1$ と前期比 9.3 ポイント低下し、人手「不足」感が強まった。来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 12.5$ と今期実績比 25.0 ポイントの改善を見込んでいる。

卸売業

業況判断D.I.(卸売業)



～卸売業の景況感は低下

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 36.4$ と、前期比 9.1 ポイント低下となった。

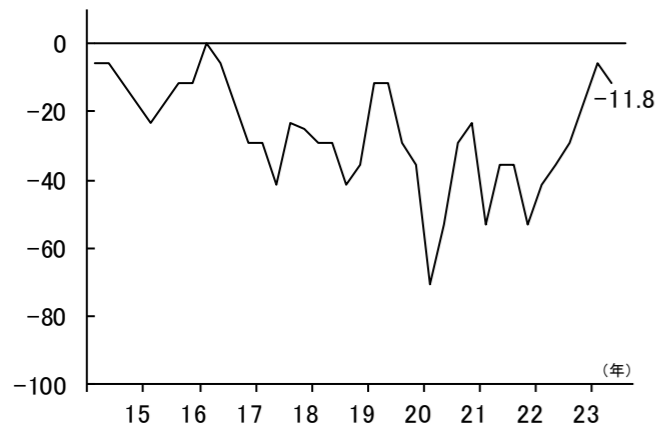
前年同期比売上額判断 D.I.は 9.1 と前期比 9.1 ポイント低下した。同収益判断 D.I.は $\Delta 18.2$ と前期比 9.1 ポイント上昇した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 9.1$ と前期比 9.1 ポイント上昇、人手過不足判断 D.I.は $\Delta 27.3$ と前期比 9.1 ポイント上昇し、人手「不足」感が弱まった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 27.3$ と、今期実績比 9.1 ポイントの改善を込んでいる。

小売業

業況判断D.I.(小売業)



～小売業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 11.8$ と前期比 5.9 ポイント低下した。

前年同期比売上額判断 D.I.は 5.9 と前期比 5.9 ポイント上昇した。同収益判断 D.I.は $\Delta 41.2$ と前期比 17.7 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 41.2$ と 11.8 ポイント低下、人手過不足判断 D.I.は $\Delta 29.4$ と前期比横ばいとなった。

来期の予想業況判断 D.I.は 0.0 と今期実績比 11.8 ポイントの改善を見込んでいる。

サービス業

業況判断D.I.(サービス業)



～サービス業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 10.5$ と、前期比 10.6 ポイント改善した。

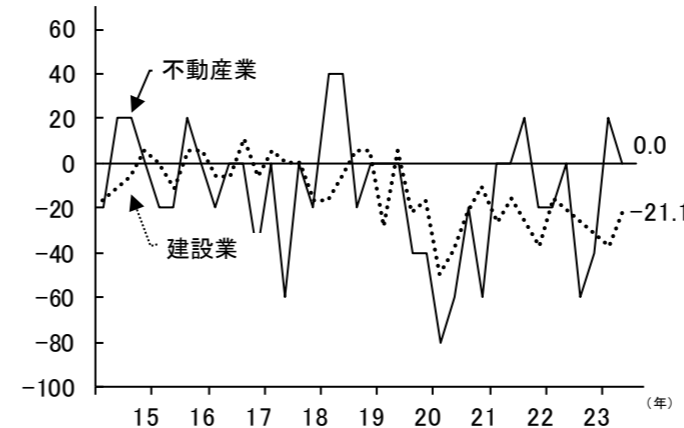
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 5.3$ と前期比 15.8 ポイント上昇した。同収益判断 D.I.は $\Delta 5.3$ と前期比 26.3 ポイント上昇した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 5.3$ と前期比 21.0 ポイント上昇した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 42.1$ と前期比 10.5 ポイント上昇し、人手「不足」感が弱まった。残業時間判断 D.I.は 0.0 と、前期比 5.3 ポイント低下した。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 21.1$ と、今期実績比 10.6 ポイントの低下を見込んでいる。

建設業、不動産業

業況判断D.I.(建設・不動産業)



～建設業の景況感は改善～

今期の建設業の業況判断 D.I.は $\Delta 21.1$ と前期比 15.7 ポイント改善。前年同期比売上額判断 D.I.は 0.0 と前期比 21.1 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は $\Delta 26.3$ と前期比 21.1 ポイント改善した。受注残判断 D.I.は 15.8 と前期比 15.8 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は 5.3 と、前期比 15.8 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 42.1$ と、前期比 5.3 ポイント低下となった。来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 10.5$ と、今期実績比 10.6 ポイントの改善を見込んでいる。

～不動産業の景況感は低下～

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、今期の業況判断 D.I.は 0.0 と前期比 20.0

ポイント低下。前年同期比売上額判断 D.I.は 40.0 と前期比 20.0 ポイント低下。同収益判断 D.I.は 0.0 と前期比 20.0 ポイント低下した。資金繰り判断 D.I.は $\Delta 20.0$ と前期比横ばいとなった。在庫過不足判断 D.I.は 0.0 と前期比横ばいとなった。来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 20.0$ と、今期実績比 20.0 ポイントの低下を見込んでいる。

調査員のコメント

製造業： 原材料価格高騰の影響が継続しており、売上も停滞している。

卸売業： 仕入価格が十分に販売価格に転嫁出来ておらず、収益改善に至っていない。

小売業： 仕入価格が高騰し販売価格も上昇しているが、売上金額は増加していない。

サービス業： 人材不足が課題。仕事はあるが人が足りず調整しなければならない状況。

建設業： 公共工事の入札が少ない。リフォーム工事は安定的に受注できており問題なし。利幅の確保を行いたい。

不動産業： 都市部では、不動産市場は活況にあると感じる。また、住宅価格高騰によりローン利用者が若年齢化している。